

第2期 第1回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録

- 1 会議名 第2期 第1回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
- 2 日時 平成30年8月9日(木) 午後6時から7時半
- 3 会場 東久留米市役所7階 703会議室
- 4 出席委員 石田委員、石塚委員、石橋委員(副会長)、稲田委員、井上委員、大坪委員、岡野委員、上遠野委員、久山委員、齋藤委員、田野委員、田村委員、鶴岡委員(会長)、時任委員、中島委員、西村委員、藤井委員、降矢委員、宮崎委員 以上19名
- 5 欠席委員 増田委員 以上1名
- 6 事務局 傳介護福祉課長、廣瀬保険年金課長、遠藤健康課長、後藤障害福祉課長、櫻井地域ケア係長、森山主査、大川主任、柴田主任
- 7 傍聴人 1名
- 8 次第 第2期 第1回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
  - (1) 委員自己紹介
  - (2) 事務局紹介
  - (3) 配布資料の確認
  - (4) 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱について
  - (5) 会長及び副会長の選任について
  - (6) 報告及び議題
    - 報告1 第1期協議会の実績について
    - 報告2 医療・介護関係者の情報共有(ICT等)について
    - 議題1 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築について
    - 議題2 多職種研修会について
    - 議題3 在宅療養ガイドブックの作成について
  - (7) その他
    - ①「ケアマネジャーからの地域連携情報シート」の修正について
    - ②東久留米市在宅療養相談窓口主催 多職種研修会開催のお知らせ
    - ③次回協議会開催は、平成30年12月予定
  - (8) 閉会

## 9 配布資料一覧

【資料1】東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会＜第2期＞委員名簿

【資料2】東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱

【資料3】第1期協議会の実績について

【資料4】医療・介護関係者の情報共有（ICT等）について

【資料5】切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の構築について

【資料6】多職種研修会について

【資料7-①】第2版・在宅療養ガイドブック作成について

【資料7-②】第2版・在宅療養ガイドブック企画案Vol.2

【資料8】「ケアマネジャーからの地域連携情報シート」の修正について

【資料9】厚生労働省リーフレット「もしものときのために」（アドバンス・ケア・プランニングACPの普及・啓発）

【資料10】東久留米市在宅療養相談窓口主催 多職種研修会開催のお知らせ

## 10 第2期 第1回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会の開催

1. 委員委嘱式（省略）

2. (1) 委員自己紹介（省略）

(2) 事務局紹介（省略）

(3) 配布資料の確認（省略）

(4) 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱について

【事務局】東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱の概要を資料2により説明する。

（説明省略）

(5) 会長及び副会長の選任

・会長 鶴岡委員

・副会長 石橋委員

・出席者等の確認

出席者19名、欠席者1名。定足数に達しており、会議は成立。

(6) 議題（要点のみ筆記）

① 報告1 第1期協議会の実績について

【会長】第1期協議会の実績について事務局より説明をお願いする。

【事務局】資料3より抜粋して報告する。当協議会は平成28年5月25日に第1回を開催し、年3回の協議会と年1回のシンポジウム、多職種研修会の開催や在宅療養ガイドブックの作成

について取り組んできた。平成28年7月には検討課題のアンケートを283の機関に行い、その結果に基づいた内容で概ね進めてきた。平成30年5月17日第1期最後の協議会では、議題1で多職種研修の内容の検討、議題2でガイドブック作成の更新の決定、議題3で医療・介護関係者の情報共有についての専門部会をこの協議会の下に設置することの決定を行なった。

## ②報告2 医療・介護関係者の情報共有（ICT等）について

※ICTは「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略

【会長】医療・介護関係者の情報共有（ICT等）について事務局より説明をお願いします。

【事務局】資料4より報告する。まず、医療・介護関係者の情報共有の目的は、「患者・利用者在宅療養生活を支えるために、患者・利用者の状態の変化等に応じて、医療・介護関係者間の速やかな情報共有が行われること」となる。報告1「第1期協議会の実績について」で説明を行なったとおり、本年5月17日に開催された第1期第7回在宅医療・介護連携推進協議会にて、専門部会として「医療・介護関係者の情報共有部会」を設置することとなり、その部会において、情報共有の仕方についての検討及び今後の方向性を決定していくこととなった。部会の委員については、これまで情報共有の検討の場であった東久留米市医師会主催の小委員会のメンバー構成を引き継いだものとして、各団体へ委員12名の選出を依頼している最中である。部会の開催日については、第1回を9月3日の予定で準備を進めており、年3回の開催を予定している。

また、部会で話し合われた検討内容については、随時協議会にて報告していく。

【委員】現在、カナミックを中心に動いているものと動いていないものがあるが、現状を確認させていただきたい。

【会長】それについては、副会長に説明をお願いします。

【副会長】これまでの委員会は東久留米市医師会の会員医師が担当されていたが、今後は市で担当することになるかと思われる。

現在はカナミックを利用しているが、今後どうするかということについては、9月3日の部会で検討していきたい。費用についても引き続きカナミックを利用していく場合や新規で他のシステムを利用する場合のことを検討しなければならない。通信費用については、今まで都の補助金や医師会より予算も出ていた。今後、最終的には事業者負担となるかと思われるが、これらについても部会で検討していきたい。なるべく普及するように進めていきたい。

【委員】東久留米市のカナミックの利用状況はどうか？

【事務局】事務局では把握していない。

【副会長】あまり利用されていない。一番のネックは登録を医師がしなければならないところである。なかなか全体に普及しない状況である。

【会 長】ICTについては9月3日の部会で詳しく進めていくということによいか？

【委員】はい。

### ③議題1 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築について

【会 長】議題1 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築について事務局より説明を願いたい。

【事務局】資料5を参照。切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進については、平成29年度まで、東久留米市医師会において検討していたが、東京都より平成30年度からは検討の場を区市町村とする旨が示された。そのため、本協議会の下に「専門部会」を設置し、本課題に関しての検討の場を設けることを提案したい。

【会 長】切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進についての専門部会を立ち上げたいということについて意見をいただきたい。

【委 員】一人経営の薬局などは人的な問題もあるので、対応できるやり方を考えていきたい。

【委 員】歯科医師会としては会として協力する準備はできている。

【委 員】相談窓口として4月から7月末まで92件の相談を受けた。その中で、在宅療養される方や病状が不安定な方のレスパイト入院する施設が非常に少なく、ケアマネから相談されることが多い。市内の病院の体制から考えると他市の施設や病院にお世話になることになり、その辺りの調整がニーズとしてあると感じる。また、癌末期の方も若年化傾向にあり、介護サービスが使えれば在宅療養もできるが、意見書に末期と書けないがゆえに2号被保険者でも介護保険が使えず、在宅療養が厳しいというような事例もある。医療と介護の切れ目ない提供というところでは、窓口から見えてくる再検討課題があると感じる。

【委 員】包括の相談窓口では、医療依存度の高い方の相談が多くなった。癌末期の若い方や帰るなら今しかないというような急ぐケースも多くなってきている。そういった面で医療との連携が非常に大切で専門部会の設置に関しても必要性を感じている。

【委 員】定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスなど市内で1事業所しかない地域密着型サービスだが、なかなか市民の方に定着していない状況がある。地域の社会資源としてできることもあるので、どのようにして地域の方々に貢献できるのか部会でも検討課題としていきたい。

【委 員】切れ目のない医療と介護の提供体制というところでは、デイサービス等で苦慮している場合が多いが、治療のない方についても課題である。

【副会長】在宅で医療を受けられるような体制を整えることが在宅医療で、病院も施設も全てで在宅医療を支えていることをご理解いただきたい。ガイドブックに記載のある「北多摩北部保健医療圏地域医療連携データベース」はおそらく今年度中に終了する予定であることを報告する。

基本的に24時間の在宅医療を支える上で一番ネックになるのは、在宅を支える医師が少ないことと在宅を支える医療機関が十分でないことで、そういったことを重点的に検討していかなければならない。東京都からの直接事業で医師会が委託を受けて、医師会・薬剤師会・訪問看護ステーションの3つの組織でどのようにすれば24時間の切れ目ない医療体制が保たれるのかを検討することからはじまっており、一般診療所の患者が自宅に帰った後の体制づくりについて考えていかなければならない。

ICTに関しては、より多くの方が使えるようなものを検討して、その情報が医療と介護に関わる多くの方が見られる情報にしていきたい。実践されている自治体などを参考にしながら、来年までには動いていきたい。その中で東京都医師会が行っている東京都総合運用ネットワークというものがある。大きなネットワークであり、そのネットワークを持つ病院同士の連携が7月から開始される。他の病院の患者のカルテを見ることが可能になり、例えば診療所から病院のカルテを見ることができる。病院から広がっていくようなネットワークが進んでおり、そういうものに乗遅れないようにしなければならない。

【会長】皆様の意見を伺い、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進についての専門部会の設置については異議がないようなので、このまま進めさせていただきたい。

#### ④議題2 多職種研修会について

【会長】議題2 多職種研修会について事務局より説明を願いたい。

【事務局】資料6を参照。前回の協議会で、今年度の研修の3つのテーマが決まった。第1回の摂食・嚥下については、協議会の中で話のあった日本歯科大学教授口腔リハビリテーション多摩クリニックの菊谷先生にお願いし、快く引き受けていただいた。詳しい講演内容、人数、会場などについては早急に検討していく。

【会長】摂食・嚥下の内容について意見をいただきたい。

【委員】飲みこみの悪さやむせるなどについてヘルパーや施設から相談を受けることが多いが、個々の見方によっても違う。施設でも在宅でも多くの人に参加していただくために、難しい内容ではなく誰でも評価できるレベルに落とし、評価方法や食事形態を合わせたような内容がよいのではないかと。

【委員】生活に密着したような実践できる内容ということか？

【委員】訪問看護部会でも今年度は摂食嚥下についての勉強会を多摩北部医療センターの看護師をお呼びして10月19日（金）に企画している。医師サイドと看護サイドを分けて話を聞くことも良いかと思う。

【委員】リハビリが難しいという話もあるが。

【委員】訪問リハビリで飲みこみなどの相談を受けることは多い。本人もできて、家族にも伝えられるような誰でも実践できるような内容が良い。

【委員】摂食嚥下も大切だが、摂食嚥下がしっかりできる口腔内かということが更に重要である。患者さんがしっかり摂食嚥下できる口腔内を作ってあげることが最も大切である。

【委員】多くの専門職が参加でき、わかりやすい内容が良いが、参加人数が500人というのはどうか？

【委員】（100名か500名）その中間ぐらいはどうか？

【事務局】駐車場を伴う施設がない。

【委員】成美会館はどうか？

【事務局】費用の問題がある。

【会長】会場については事務局にあずけるということでよいか。また、第1回多職種研修会については提案の内容で進めるのでよいか。

【委員】よい。

### ⑤議題3 在宅療養ガイドブックの作成について

【会長】議題3 在宅療養ガイドブックの作成について事務局より説明を願いたい。

【事務局】資料7を参照。平成30年7月25日 明治薬科大学 副学長・地域医療コースの先生方へ市からご挨拶に伺った。1年生～6年生の学生さんが交った10名程のチームを編成し、こんな感じがいいのでは等のアイデアの提案をしてもらうこととなった。9月15日以降に元原稿をデータで渡し、11月頃を目途に検討してもらう予定である。学生さんに意見をもらうが、採用するかどうかは協議会委員の決定に委ねることを了承していただいた。冊子が出来上がったら、ご協力頂いたことを冊子の中に残すことや協力した学生さんに大学側で（例）表彰するなどこのボランティア活動の評価方法を検討して下さるとのことであった。

各団体の原稿は9月14日（金）までに事務局へご提出頂くことになっているので、作成を引き続き、お願いしたい。

【会長】地図について意見をいただきたい。

【委員】既に医療機関マップはあるが、介護関係ではないのか？

【事務局】事業者ガイドブックで一覧はあるが、マップ化はしていない。地図でどこにあるか

わかりやすい方が良いが、作成は難しい。医療と介護を一緒に載せると重なるので、見やすいものを検討していきたい。

【会 長】地図についてのアイデアがあれば事務局へ連絡を願いたい。

#### ⑥その他

【会 長】その他について事務局より説明を願う。

【事務局】資料8参照。①「ケアマネジャーからの地域情報連携シート」について情報提供をさせていただく。

北多摩北部医療圏の多摩小平保健所が先進的な取組みとして、ケアマネジャーから医療機関に情報提供しやすいように、また医療機関でも見やすいように「地域情報連携シート」を作成していただいた。それとは別に平成30年4月の介護保険の介護報酬会計のところで厚労省が入院時情報連携加算の様式例を作成したが、若干内容が異なっていた。連携するためのシートと加算をとるためのシートの2種類を作成することを省略するために保健所でも検討していただき、加算を取るのに不足していた入院日欄を追加修正した情報シートを作成していただいた。既に東久留米市のHPにも新しい情報シートを掲載しており、居宅事業所にもお知らせしている。

【副会長】ICTについては情報共有に関する研修会を今年度2回開催したい。時期ははっきりしていないが、新しいICTを含めた使い方をお知らせする講習会を1回と実際にどのようなに使われているかをお知らせする講習会を1回の開催を予定している。詳細が決まれば連絡させていただく。

脳卒中ネットワーク委員会でも脳卒中とはどのようなものかという一般的な方々にお知らせする講演会を西東京市が担当で計画している。有名な芸能人の方を招き、多くの方々に来ていただきたいと思っている。また、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の研修会も計画されている。ともに、詳細が決まればお知らせする。

【事務局】資料10参照。②東久留米市在宅療養相談窓口より研修会のお知らせをしたい。

【在宅療養相談窓口】在宅療養相談窓口が主催で医療と介護の連携強化のための研修会を今年度に2回企画している。医療と介護の連携強化にあたりどのような課題があるのかを相談窓口に来ていただいた事例より検討した。

【会 長】以上について質問はあるか？

【会 長】次回協議会は12月上旬を予定している。

これを以って第2期第1回東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会を終了させていただく。